



本誌は、学校経営・運営ビジョンの実施状況や達成結果を保護者や関係者の方に公表することを目的として、本校が発行する通信誌です。

学校評価アンケート集計結果報告

保護者の皆様には、昨年12月に実施いたしました「令和6年度学校評価期末アンケート」にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。保護者・生徒・教員アンケートの集計結果の要点をご報告いたします。なお、本誌裏面には保護者・生徒・教員対象アンケートの集計表も掲載しましたので、あわせてご覧ください。

1 保護者対象アンケート結果の分析

・年度末の全体概況

すべての項目に高い評価を得ている。おおむね生徒と結果がほぼ同じである。

・各項目の概況

保護者アンケートでは、多くの項目で国際理解教育の推進、希望進路実現に向けた指導などの各部・各学年・各教科の取組が理解・認知され、評価3が多くなっている。本校の教育活動への理解が深まってきていると思われる。

低い評価は、部活動の充実であった。今後も、学校の取組について積極的に情報発信の機会を増やしていくとともに保護者からの意見を真摯に受け止め、さらに改善を図っていききたい。

2 生徒対象アンケート結果の分析

・年度末の全体概況

すべての項目に高い評価を得ている。SDGsの浸透が図られ、総合的な探究の時間の活動が活発になり、地域とのつながりが深められ、多様性について深い理解が持てるようになった。

・各項目の概況

最も評価の高かったものは項目〔7〕「国際交流と異文化理解を深める学習活動を実践している」であった。今年度もオーストラリア研修が実施された。他に台湾研修、今年度初めてのハンガリー研修が実施された。コロナ禍の影響で海外修学旅行ができなくなっていたが、今年はグアム修学旅行が実施された。このため国際交流や異文化理解などに高い評価を得られた。項目〔1〕「生徒が主体的に取り組む総合的な探究の時間を充実させている」〔8〕「学校を本質的なSDGsの実践の場としている」も比較的評価4の回答数が多く、総合的な探究の時間やSDGsの諸活動に高い評価を得ている。

低い評価となったのは、項目〔11〕「生徒会活動や部活動を充実させている」である。部活動の部員数の減少や休部や廃部、上位大会への出場がないことなど、生徒も敏感に感じているところである。

〔生徒の学習時間〕については、「していない」が生徒の27.6%もいる。「1分以上30分未満」を合わせると49.4%にもなる。四年制大学や短期大学に進学を希望する生徒が多い本校で、近い将来大学での講義等に対応できる学力をいつ身に着けるのか心配である。

3 教員対象アンケート結果の分析

・年度末の全体概況及び中間評価との比較

すべての項目に高い評価を得ている。本校教員は、国際科学科ならではの学習活動や各行事等に関わり、生徒も積極的に参加・活動をしている。

・各項目の概況及び中間評価との比較

最も高い評価を得たのが項目〔7〕「国際交流と異文化理解を深める学習活動を実践している」であった。生徒への海外研修の機会も多く、異文化理解の行事も年間を通して行われていることが高評価につながったものと思われる。本校の特色であり、魅力となっている。

低い評価となったのは、項目〔16〕「生徒・保護者・家庭・地域等への情報発信のため、ホームページを充実している」であった。昨年度よりもホームページで発信する情報量は増えたが、まだ十分に発信していないと評価する教員が多かった。次年度に向けて、改善を図り、学校の諸活動や教育活動の理解を深めてきたい。

*なお、アンケートに際し、保護者の皆様、生徒からよりよい学校づくりのための様々なご意見をいただきました。今後とも貴重なご意見を真摯に受け止め次年度以降の学校づくりや生徒指導に活かしていくとともに、より充実した学校評価活動を行って参りたいと存じます。